



スマイルサポートセンター

植田美枝子

**問** 市長は、震災から8年が過ぎ、ハードの整備は9割完了し、これからはソフト面に注力する時期だと話している。ソフト面の事業の1つ、見守り事業について、平成31年度の復興交付金は申請したのか。

**社会福祉課長** 被災者支援を継続していくため、国の被災者支援総合交付金の申請を行なっています。

**問** 前年度と同額か。

**社会福祉課長** 前年度はサポートセンター事業と羊を活用した支援事業を一括して申請しており、今回は分離し、サポートセンター分として2900万円の申請です。

**問** 市として見守り事業はいつまで必要と考えているのか。

**健康福祉部長** マスタープランのフォローアップ計画に基づいて32年度までと考えています。

**問** その後の計画はあるのか。

**健康福祉部長** 被災者の状況などをしっかりと確認して必要と判断すれば考えます。

複数年の計画立てるべき

**問** 複数年の計画を立てるべきと思うがどうか。

**社会福祉課長** まずは、32年まで支援する計画です。

**問** いわぬまひつじ村について、市長が今後は障害者の就労場所として続けてもらいたい、被災者の新しい触れ合いの場になってほしいと話した。被災者の心のケアとして始まった羊を今はどう捉えているか。

**健康福祉部長** 被災者の交流や生きがい作り、また、市内外から多くの人が被災地に足を運んでいた。多くツールと捉えています。

**問** 心のケア事業、ひつじ村、千年希望の丘、ソバ畑等々、絵にするとのぼのぼのしているが、大きな維持費を知った市民の心はほのぼのできると考えているのか。

**市長** 程度もあるので適正に判断していきます。

◎その他の一般質問

- ・岩沼駅前整備
- ・児童館



朝日2号線

須藤 功

**問** 用地買収費と工事費を合わせ、総額はいくらになるのか。

**土木課長** 2億4000万円と見込んでいます。

**問** 市は道幅4メートルの既存橋をそのままにすると聞いた。29年の6月定例会で、市長は地域との話し合いを進めながら、まずは橋の手前まで道路を整備し、もう1つは、橋と一緒にやるのが本当にいいのかわるか、もう少し地域の意向を踏まえながら進めていきたいと答弁した。地域の意向を踏まえての結果なのか。

**建設部長** 平成30年の6月に事業説明会を行っています。その中で生活道路の利便性を高めるということで5・5メートルの車道にすると、橋につきましては、現状のままでもいいかと説明した中で、特に反対意見はありませんでした。

**問** 話はどことしたか。

**建設部長** 朝日地区と長岡地区です。

億4000万円もかけて最後の10メートルにも満たない橋を交換しない、架け替えなし、橋だけ片側交互通行、道路に車が集中したら、県道側から入ってくる道路だつて渋滞することだつてある。そういうことも考えずに橋の計画をする。市長、こんな道路作ろうとして恥ずかしいと思わないか。

**市長** 恥ずかしいという思いはありません。道路の改良についていろいろ検討しています。地域との話し合いも、自ら話を聞いて、道路の形状によっては、将来、どうなるというところまで検討した上での結論です。

**問** 1つ1つの道路は恥ずかしい  
500メートルもの道路、2



朝日2号線の橋